

令和5年度「市長と語り合う会」について（都茂地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 7月24日（月）	都茂公民館	19:00～20:10	11	5	16

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和5年度 施政方針の考え方

・ウィズコロナからアフターコロナへ

令和2年の2月ぐらいから、日本国内でもコロナの感染が確認され、3年余りその影響が続いているが、5月8日から感染法上の位置づけが5類になり、インフルエンザと同じ扱いになった。全く心配が無いわけではないが、市内の経済がこの間ずっと影響を受けており、なるべく地元で集まっていたり、食事をさせていただき、またお祭りも以前のように開催していただくというふうな方向に持っていく、経済を回していくことも重要であると考えている。

・持続可能な未来都市の実現

持続可能というのは、いろいろな意味がある。一つは、今の気候変動、地球温暖化において、この原因である二酸化炭素の排出量を減らすということである。市では、昨年度から共用車の内1台を電気自動車に変えた。また、電気自動車の普及のために重要な充電ステーションの設置に伴い、関連企業と連携協定を結び市の施設に設置していただく事になった。今後、国、県の施設や民間企業の施設等にも広げていきたい。

それから、市の行財政運営を持続可能にしていくという意味もある。市の財政が、きちんと保たれるためには、歳入を確保し歳出を減らしていく必要があり、産業振興による税収入や、ふるさと納税等により歳入を増やし、歳出をいかに抑えていくか、効率のよい行政にしていかなければならないと思っている。

もう一つ、持続可能な未来都市という面では、コロナ渦において、リモート会議やリモートワーク等が普及してきたが、こうした新しい技術を使った行政の在り方を考えていかなければならないと思っている。市では本年度から、亡くなられた際の手続きを、出来るだけ1カ所で済むようにする「おくやみ手続サポートサービス」を始めている。今後もいろんな窓口での手続や行政とのやりとりも、市民の皆様から見て便利にできるようにしていきたいと考えている。

2. 令和5年は様々な節目の年

・JR益田駅開業100周年

大正12年にJR益田駅が開業し、この時に山口線が益田駅につながり全線開通した。4月にJR益田駅で記念イベントが行われた。実は、その年の秋には山陰本線も益田駅までつながり、JRの関係でいうと大きな節目の100周年に当たる。

JRについては、人口減少とコロナ等により利用者が減ったため経営状況が厳しくなり、県内でも三江線が廃止された。赤字の額だけで言うと出雲市駅から益田駅が一番多く厳しい状況だった事が明らかになった。JRについても、鉄道会社と地元住民、また企業も巻き込んで利用拡大をしていかないといけないと思っている。

・萩・石見空港開港30周年

令和5年の7月2日に開港したのが始まりで、現在、東京線を一日2往復、大阪線は、夏の間だけ限定運航である。東京線の内、1往復運航については、国土交通省の特別枠で、令和7年3月までは2往復運航が確保されているが、3月以降どうなるかは、これからの利用状況等により決まるので、今年度、来年度の利用を拡大していくことが重要になる。大阪線についても、継続していくため、引き続き利用拡大に取り組んでいきたいと考えている。

・柿本人麿没後1300年

今から300年前の享保8年、亡くなって1000年の年に、柿本大明神という神様に祀ることが、朝廷によって決められたことから、今年が1300年という事になる。柿本人麿は、雪舟と並ぶ益田の偉人なので、神社、あるいは民間のお祭りの実行委員会等と連携し発信していきたいと考えている。

ちょうど昨日が、昭和58年の大水害の年から40年という年となり、当地区でも仙道夜市が開催された。今まさに、気候変動で大雨の頻度や程度が激しくなっており、こうした災害の被害を風化させることがないように災害に備え、市民の皆様にも、防災の意識をしっかりと持ち、日頃から防災訓練等呼びかけていくことを改めて思った。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 食料品店について (1)
- ② 食料品店について (2)
- ③ 終末期医療について
- ④ 人口減少対策について
- ⑤ 防災について
- ⑥ プールの使用について
- ⑦ 地域自治組織について
- ⑧ 日本遺産について
- ⑨ 風力発電について

○ 閉会 (秘書課長)

令和5年度「市長と語り合う会」

〔会場 都茂公民館 開催日時：令和5年7月24日（月）19:00～20:10〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 食料品店について (1) 都茂地区には、食料品を買物するお店が1件もない。美都町の半数の人口を占める当地区に1件もない事をどう思われるか。移動販売はあるがそれでは追いつかない。高齢者になった時がとても不安であり、買物難民にならないよう検討してほしい。</p>	<p>① 日常の食料品が買える店があるということは、生活していく上で非常に大事なことだと思う。業者側の努力だけではなくて、持続可能な経営を保てるよう、住民の皆様にも重要性を理解し利用していただく事が大事であり、商工団体、地域の方々のご意見を伺いながら探っていきたい。</p>
<p>② 食料品店について (2) 店がなくなるっていうことは、食だけの問題ではなく、フレイルの予防やコミュニケーションの場等もっと大きな問題があると思う。行政から知恵を出していただきたい。</p>	<p>② お店がない事について、何とかしなければという思いはあるが、基本的にお店は民間事業者が運営されており、行政がどこまで責任を負うかは難しい課題であり、赤字分は市が見ますよという事にはならない。お店を維持するには、どれくらいの売り上げが必要か、世帯当たりどのくらい買わないといけないか等計算し、住民の皆様にも協力していただかないと運営が成り立たないので、事業者さんや地元の皆さん、様々な団体等とも話し合いをしていきたい。</p>
<p>③ 終末期医療について 終末期になった方の受け入れ先が益田にはなく、将来すごく不安である。他県に行かなければならないなら、今のうちにと考えることもある。今後の展望をお聞きしたい。</p>	<p>③ 医療については、ほとんど民間事業者が提供しており、終末期医療も誰が運営していくかという事も課題である。今後高齢化により、終末期医療のニーズも高まってくると思うので、医療機関や保健所等と話し、益田市で提供できるようにするためにはどうしたらいいか大きな課題として考えていきたい。</p>
<p>④ 人口減少対策について 毎日、新聞のお悔やみ欄に名前がたくさん掲載され人口減少を懸念しているが、若者の定住対策についてのお考えを伺いたい。また、地域に結婚していない40代の方が結構おられるので、出会いの場の提供等の対策を行ってほしい。</p>	<p>④ 定住も、結婚も、行政としてできることは、益田に移住してみようと思う人や、益田に生まれそのまま住み続けようと思う人、また結婚したいって思う人が増えるよう誘導していく事である。現在でも、UIターンの奨励金や高校生と地元企業の接点を増やす取り組み、出会いをつくるイベントを企画される団体に対して助成等行っている。また、安定した所得が得られるよう教育の面も力を入れていきたい。</p>
<p>⑤ 防災について 避難情報について、防災無線やスマホ等での方法もあるが、以前のような屋外スピーカーで周知する事はできないか。また、公民館が第1次避難場所になっているが、ハザードマップでは、土砂災害と急傾斜区域にかかっている。公民館の前に平地があり、公民館より安全と思われるため上手く活用できないか。</p>	<p>⑤ 屋外スピーカーは、維持が難しいのが現状である。現在各家庭にある端末装置やスマホの防災アプリ、ラインの公式ページ等を設けており、なるべくたくさんの伝達手段を確保しお知らせが届くようにしたい。それから避難場所について、市の考え方としては、いろんな災害にそれぞれ対応できる施設を確保しており、ハザードマップに記載している。住民の皆様方には、事前に避難場所の確認やご近所で情報共有しておいていただきたい。</p>

⑥ プールの使用について
都茂小学校でプールが使えないと聞いた。学習指導要領の中でも水泳はすごく大事だと思うが、市長のお考えをお聞きしたい。

⑦ 地域自治組織について
各地区で地域自治組織ができているが、活動の中で5年後10年後にどういった形にしていきたいのか市長のお考えを伺いたい。

⑧ 日本遺産について
外から稼ぐには、観光というものが必要であり、日本遺産の活用が1番だと考えているが、日本遺産に対しての市長のお考えをお聞きしたい。

⑨ 風力発電について
道川の奥に風力発電建設の話があるが、清流高津川等環境への影響を懸念しており、あれだけの規模の自然を壊してまでする必要があるのか心配である。また、農業や動物等への影響も考えられ、自然環境も益田市の体の一部として、もっと大事にした方がいいのではないかと思う。

⑥ 小学校のプールの授業は、今おっしゃったように非常に大事なものであると考えている。以前は、必ず学校に一つ必ず備えていたが、市では数年前から、学校全てにプールを設置するという方針はやめ、特に周辺部の小学生は、市内の民間プールに通ってもらい専門的な人に教えてもらうという体制にしている。維持管理経費がかかり、また泳ぎ方を指導する教員も確保をしなければいけない。民間企業が運営するプールを学校でも利用したほうが、プールの経営が安定し民間も助かるし、我々公も助かるという意味でも連携してやっているところである。

⑦ 地域自治組織を設立され維持、運営されていることは、ありがたいと思っている。今後については、次の世代が引き継いでいかないといけないので、担い手の確保ということが大きな課題だと思っている。もう一つは、財政的にも持続可能にしていくということである。地域自治組織自身も、例えば、地域の産品をうまく活かし、それを外貨に変えて活動資金にしていくようなことも考えていただきたいし、市も協力していきたいと考えている。

⑧ 日本遺産については、3年後の審査で重点支援地区に選ばれるよう取り組んでいきたい。そのために、地元の民間の方々と行政が連携し、文化を維持、保存するだけでなく、活用し魅力あるものにして、外から益田市に来ていただき、お金に換える仕組みを作っていきたいと考えている。

⑨ 風力発電について単体で見たときには、再生可能エネルギーであり環境に良い施設になるが、問題となるのは、建設に伴う波及効果であり、それを審査するのは国で、基礎自治体としては、態度を表明することになる。基本的には、工事等により環境が損なわれない事、地元の方々へ十分な説明をし、理解を得る形で進めていただきたいということを県知事に申し上げた。いろいろな考え方があり、プラスの面、マイナスの面、いろんな面が考慮されないと判断出来ないと思っている。